

東京都写真美術館はリニューアル・オープン／総合開館20周年記念として「杉本博司 ロスト・ヒューマン」展を開催します。杉本博司は1970年代からニューヨークを拠点とし、〈ジオラマ〉〈劇場〉〈海景〉などの大型カメラを用いた精緻な写真表現で国際的に高い評価を得ているアーティストです。近年は歴史をテーマにした論考に基づく展覧会や、国内外の建築作品を手がけるなど、現代美術や建築、デザイン界等にも多大な影響を与えています。

本展覧会では人類と文明の終焉という壮大なテーマを掲げ、世界初発表となる新シリーズ〈廃墟劇場〉に加え、本邦初公開の〈今日 世界は死んだ もしかすると昨日かもしれない〉、新インスタレーション〈仏の海〉の3シリーズを2フロアに渡って展示し、作家の世界観、歴史観に迫ります。

〈今日 世界は死んだ もしかすると昨日かもしれない〉では、文明が終わる33のシナリオを自身の作品や蒐集した古美術、化石、書籍、歴史的資料等から構成したインスタレーションをご覧ください。物語は空想めいていて、時に滑稽ですらあります。しかし、展示物の背負った歴史背景に気づいた時、私たちがつくりあげてきた文明や認識、現代社会を再考せざるを得なくなるでしょう。

そして、本展覧会で世界初公開となる写真作品〈廃墟劇場〉を発表します。1970年代から制作している〈劇場〉が発展した新シリーズで、経済のダメージ、映画鑑賞環境の激変などから廃墟と化したアメリカ各地の劇場で、作家自らスクリーンを張り直して映画を投影し、上映一本分の光量で長時間露光した作品です。8×10大型カメラでフィルム撮影し、精度の高いプリント技術によって仕上げられた大判のゼラチン・シルバー・プリントによって、朽ち果てていく華やかな室内装飾の隅々までが目前に迫り、この空間が経てきた歴史が密度の高い静謐な時となって甦ります。

鮮烈なまでに白く輝くスクリーンは、実は無数の物語の集積であり、写真は時間と光による記録物であるということを改めて気づかせてくれるこれらの作品によって、私たちの意識は文明や歴史の枠組みを超え、時間という概念そのものへと導かれます。その考察は、シリーズ〈仏の海〉でさらなる深みへ、浄土の世界へと到達します。〈仏の海〉は10年以上にわたり作家が取り組んできた、京都 蓮華王院本堂（通称、三十三間堂）の千手観音を撮影した作品です。平安末期、末法と呼ばれた時代に建立された仏の姿が、時を超えていま、新インスタレーションとなって甦ります。

人類と文明が遺物となってしまわないために、その行方について、杉本博司の最新作と共に再考する貴重な機会です。ぜひご覧ください。

リニューアル・オープン 総合開館20周年記念

杉本博司 ロスト・ヒューマン

Hiroshi Sugimoto Lost Human Genetic Archive



3点共: 〈今日 世界は死んだ もしかすると昨日かもしれない〉
パレド・トーキョー(パリ) 展示風景より 2014年
©Sugimoto Studio



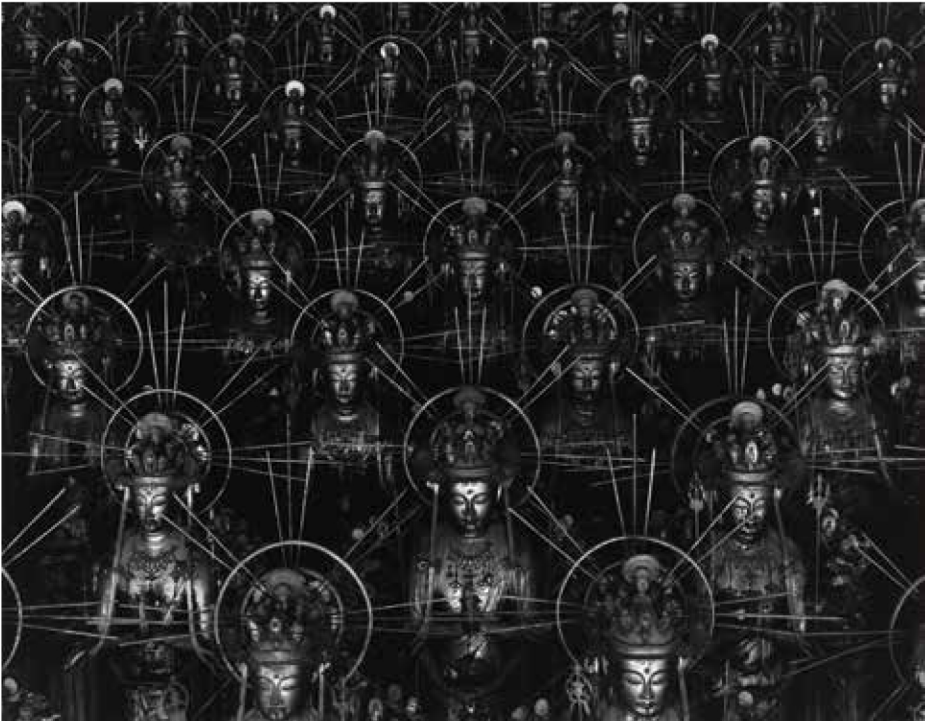
岡本太郎 太陽の塔(模型)
1970年
©Sugimoto Studio



ロシア宇宙飛行士用大便器、小便器
銘(スペース・ファウンテン)
©Sugimoto Studio

作家プロフィール

1948年、東京生まれ。1970年に渡米し、アート・センター・カレッジ・オブ・デザイン(L.A.)で写真を学び、1974年よりニューヨーク在住。明確なコンセプトに基づき、大型カメラで撮影された精緻な写真作品を制作し、国際的に高い評価を確立、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞など。「歴史の歴史」展(カナダ、アメリカ、国立国際美術館、金沢21世紀美術館など、2003-2009)、ガラスの茶室「Glass Tea House Mondrian／間島庵」(ヴェネツィア、2014)、「趣味と芸術―味占郷／今昔三部作」(千葉市美術館、2015)など多数。



〈仏の海〉1995年
©Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

関連事業

連続対談

文明の終焉という壮大なテーマについて、歴史・思想的側面から文化まで幅広く掘り下げる対談です。
浅田彰(批評家、現代思想)×杉本博司
都築響一(写真家、編集者)×杉本博司
日時: 9月3日(土) 14:00-16:30
会場: 東京都写真美術館1階ホール
定員: 190名(整理番号順入場／自由席)
入場料: 無料／要入場整理券
当日10時より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

映画『羅生門』(黒澤明監督、1950年)

本展覧会で世界初公開となる杉本博司の新作〈廃墟劇場〉を記念した特別上映を開催します。〈廃墟劇場〉は、杉本が全米の朽ち果てた映画館で、時には自作のスクリーンを設置し、自ら選んだ映画を投影し、上映1本分の光量のみで大型カメラを用いて制作した最新の写真作品です。今回は、杉本が選んだ映画の中から『羅生門』デジタル完全版(角川映画)をYEBISU GARDEN CINEMAの美しい劇場空間で上映します。本編前に『羅生門』の光で撮影した杉本の写真作品〈廃墟劇場〉を特別にスクリーンでご覧いただく予定です。
主催／会場: YEBISU GARDEN CINEMA(恵比寿ガーデンプレイス内)
上映期間: 2016年10月15日(土)–21日(金)
※10月19日(水)19:00より杉本博司によるトーク有り。
トーク終了後より上映。
※19日(水)以外の上映時間、チケット情報など、詳細につきましては決定次第、劇場HPで告知します。
www.unitedcinemas.jp/yebisu
お問合せ: YEBISU GARDEN CINEMA Tel: 0570-783-715
(24時間自動音声案内 オペレータ受付時間: 全日10:00–20:00)

映画『杉本博司 作 朗読能「巢鴨塚」

杉本博司は、東京裁判A級戦犯・板垣征四郎が収監中の巢鴨プリズンでうたった漢詩を元にした謡曲・修羅能「巢鴨塚」を書き下ろし、能公演化をめざす創作活動を始めました。その起ち上げから、実験的に試演された朗読能『春の便り〜能「巢鴨塚」より〜』公演(2015年)までの記録映像を上映します。
主催・制作: 公益財団法人小田原文化財団
作・構成・出演: 杉本博司
作調: 亀井広忠
出演: 余貴美子、大島輝久 他
日時: 10月29日(土) 14:00／18:00(各回入替制・開場は上映30分前)
会場: 東京都写真美術館1階ホール(定員190名)
上映時間: 1時間30分
入場券: 1,000円
当日10時より1階ホール受付にて販売(入場整理番号付)
整理番号順入場／自由席 ※未就学児の入場不可
お問合せ: 小田原文化財団 info@odawara-af.com
Tel: 03-3473-5235(平日11:00–17:00)

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より、担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケットの半券(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます。
※本展覧会は混雑状況によって、入場制限をする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。当館には駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。